

令和4年6月23日

倉敷市長 伊東香織 様

NPO法人 倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ

理事長 妹尾盛司

音楽監督 江島幹雄

倉敷少年少女合唱団

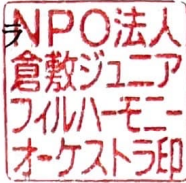
代表 鈴鹿しずか

団長 難波奏人

指揮者・音楽監督 難波夕鼓

育成会長 藤井巳芳子

倉敷管弦楽団 団長 菊池 東



要 望 書

日頃より、市民の文化芸術活動の発展にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

倉敷市山陽ハイツ跡地整備計画につきましては、現在、倉敷市文化交流会館を拠点に活動している文化団体等の新たな練習場として整備されることが公表されておりますが、主に倉敷の中心市街地に居住する小・中学生をはじめとする多数の子どもたちを対象に活動しているオーケストラや合唱団にとっては、アクセス面で制約が生じることとなるため、問題であると考えております。

子どもたちが楽器を持つての移動であったり、また様々な家庭の事情を抱える子もいる中、大人にとっては問題なくても、子どもたちには決して容易なことではありません。そのため、やむなく入団や活動の継続を諦めざるを得なかったり、また、団員数の減少により団体の活気が失われるだけでなく、団体自体の存続が危ぶまれることになるのではないかと危機感を抱いております。

つきましては、山陽ハイツ跡地はアクセスの面で課題がある文化団体があることをご認識いただき、これまで長年にわたり、倉敷の中心市街地で活動続けてきた歴史と実績のある文化団体が持続可能となるよう、中心市街地に練習場所及び楽器収納庫を確保していただきますよう、次のとおり要望いたしますので、格別なるお取り計らいを何卒お願い申し上げます。

記

【要望事項】

子どもたちが自力で安全に通うことのできる倉敷の中心市街地（倉敷駅から概ね2キロ圏内）に安定的に活動ができる練習会場（楽器保管庫含む）を確保していただきたい。

【個別事情・要望】

NPO法人 倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ

- ・子供たちの半数以上が近隣から徒歩や自転車で通っているが、オーケストラに人を集めるには広域的にならざるを得ず、駅から徒歩で通っている子どももいる。
- ・小学生が一番多いため、山陽ハイツまで自力で行くことは無理である。大人の団体と一緒に考えて、あそこがいい施設を作るからどうぞという訳にはいかないと考えている。
- ・練習場へのアクセスが一番重要である。今の交流会館か市民会館、芸文館といったところに練習場が無い限り、団の存続に関わる問題だと考えている。
- ・高齢化社会にあって、あの場所が適当なのか、安全に車を運転していってくださいと言えるのか。文化都市と言われる倉敷市が青少年に対して、アクセスしにくい場所で、本当にいいのかどうか、SDGsの観点で考えていただきたい。
- ・私たちは35年の間、老松小学校から始まり、東小学校、西小学校とジプシーのように練習場所を転々とし、苦勞してやっと辿り着いたのが倉敷消防署の跡地であり喜んで行った。中心市街地でないとできないものはできないということをよく分かっていただきたい。
- ・今後、学校の部活動が外部委託となったときに児童生徒が地域の活動に流れてくるという可能性もある。中心市街地に練習場があれば子どもたちが通える受け皿となれる。
- ・子どもにはコントラバスは運べないので、どこに行っても楽器保管庫は必須である。

倉敷少年少女合唱団

- ・約150名の団員は3歳から大学院生までおり、徒歩や自転車で来ている団員も多く、山陽ハイツでは遠すぎる。
- ・岡山市、総社市、玉島、水島、真備から参加しており倉敷駅から徒歩で来ている子もいる。
- ・小さい子どもは保護者の付き添いが必要な為、倉敷の中心部で代替会場を探したが、無料の駐車場が無いと困る状態にある。市民会館駐車場が有料になったので、クラスに分けてする時は、小さい子どもは交流会館で練習している。
- ・倉敷市からの応援（助成）も頂き、せっかくここまで育てて頂いた「倉敷の子どもの音楽文化の衰退に繋がる」事態だと深刻に受け止めている。
- ・山陽ハイツは通常の練習会場としての使用は難しい。やむを得ず、倉敷の中心部の既存の会場を使用するとしたら、付添いが必要な一部の小さい子どもの為に、駐車場を優遇する措置を考えていただけないかと希望している。
- ・市民会館大会議室と芸文館アイシアター・練習室も利用している。上のクラスの保護者は送迎だけなので駐車場の問題はない。下のクラスのうち、小さい子ども（園児）は親が付き添うため無

料駐車場のある交流会館を利用しているが、それが市民会館や芸文館になると有料駐車場の負担が生じるため、団員集めに支障が出る。山陽ハイツでは、徒歩、自転車の子が通えなくなるので大変困る。ぜひ中心部に練習会場を確保頂きたい。

- ・市合唱連盟の総会で尋ねた所、車を運転されないお年寄りの方は困っているという声があった。また、高齢の方より「山陽ハイツに移ったら合唱を辞める」という声もあった。

倉敷管弦楽団

- ・本楽団は今年で設立４８年目を迎えた。メンバーには倉敷ジュニアフィルの卒業生もいる。次世代の演奏家を育てる倉敷ジュニアフィルの活動は、我々にとっても大変重要であり応援する。
- ・楽団員には自家用車を持たずＪＲ倉敷駅や自宅から徒歩や自転車で通う者がいる。山陽ハイツ跡地は中心市街地から遠く、練習後は夜遅くなるため、徒歩や自転車では難しい。高齢者も含め誰もが自由にアクセスできるよう、タクシーよりも利用しやすく、バスよりも利便性のよい新たな公共交通が考えられないだろうか。
- ・練習室の空間の広さは音楽をするうえでとても重要となる。現在ある施設の中で音響が比較的良好い倉敷市民会館大会議室を基準に床面積・天井高を考えていただきたい。
- ・計画にある小練習室は、現在同様の施設が、倉敷市芸文館（第１、２練習室）、ライフパーク倉敷（器楽練習室）、水島愛サロン（サウンドルーム）、児島・玉島市民交流センター（第１、２練習室）等々、市内各所に多くあり、また、少人数であれば会議室でも利用可能である。一方、大練習室は文化交流会館にしかなく、しかも手狭である。そこで、山陽ハイツ跡地には小練習室の設置はやめて、その面積分を大練習室に加え、現在よりも広い空間となるようにしていただきたい。